

こんな本を読んできました

一数え切れないほどのパイプを備え、人間では作りだすことができない大量の風を使って演奏するパイプオルガン。この本を読むとその楽器の異質さと魅力を感じ、音圧に圧倒されてしまいそうになります。そしてその音色とタイトルにもなっている“怪物”とどう結びつくのか興味深く読み進めました。

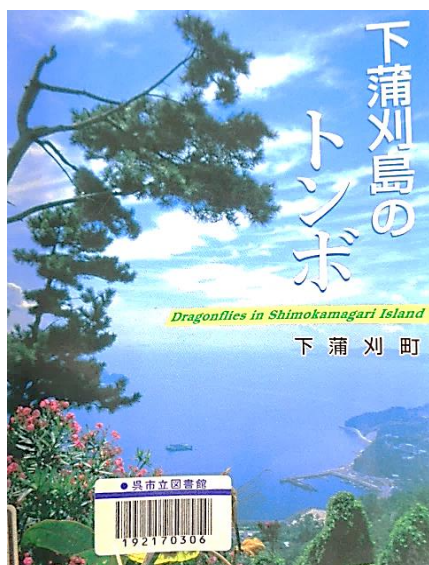
音大受験に失敗したフルート奏者の陽菜とパイプオルガン製作者の朋子。陽菜は朋子と一緒にパイプオルガンの音作りを手伝うことになりオルガンに惹かれていきますが、朋子はその中途半端な姿に苛立ちを募らせます。反りの合わなかった19歳の二人ですがオルガン製作を通して共鳴していきます。そして数々の試練に直面しながら諦めず、多くの人に助けられながらオルガンを作り上げていきます。

ページを開けば、音色が聞こえてくるような一冊です。

タイトル 風を彩る怪物
著者 逸木 裕 (著/文)
出版 祥伝社



呉市と関わりのある作家や事柄の 所蔵資料を紹介します。



郷土資料

タイトル 下蒲刈島のトンボ
著者 神垣 健司
発行 下蒲刈町

皆さんは、身近にいるトンボを、どれくらい知っていますか？ この本は、下蒲刈島で見られるトンボを中心に紹介した、神垣健司さんによるガイドブックです。

写真が充実していて、目当てのトンボ探しに一喜一憂しながらも、臨場感溢れる観察エピソードが満載です。著者とトンボとの、息を呑む出合いの瞬間が読みどころ！

私も本で種類を確認し、注意深く観察にお出かけしてみると、身近な場所にも、そっとトンボが生息していたことに気づかされました。ギンヤンマやハグロトンボ、繊細なイトトンボを見つけたときは、とても感激しました。

観察していると、他の昆虫や草花も、目にいっぱい飛び込んできます。美しい郷土の自然を、いつまでも守ってゆきたいですね。